

Title	東葛病院泌尿器科における手術統計(1994年～1999年)
Author(s)	増田, 広; 小澤, 雅史; 栗田, 晋; 斉藤, 佳隆; 一ノ瀬, 義雄
Citation	泌尿器科紀要 (2000), 46(12): 923-925
Issue Date	2000-12
URL	http://hdl.handle.net/2433/114418
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

東葛病院泌尿器科における手術統計 (1994年~1999年)

東葛病院泌尿器科 (医長: 増田 広)
 増田 広, 小澤 雅史, 栗田 晋*
 斉藤 佳隆**, 一ノ瀬義雄*

THE CLINICAL STATISTICS OF THE OPERATIONS AT
 THE DEPARTMENT OF UROLOGY, TOKATSU
 HOSPITAL: FROM 1994 TO 1999

Hiroshi MASUDA, Masashi OZAWA, Susumu KURITA,
 Yoshitaka SAITO and Yoshio ICHINOSE
 From the Department of Urology, Tokatsu Hospital

We investigated the clinical statistics of the operations and inpatients since the establishment of the department in June 1994 up to May 1999. The total number of inpatients was 1,269 (1,047 males and 222 females), and a total of 1,098 operations were performed. Extracorporeal shock wave lithotripsy (ESWL) was also introduced in 1997, and in addition, it seemed that the number of operations and inpatients would be increasing in future.

(Acta Urol. Jpn. 46 : 923-925, 2000)

Key words : Statistics, Operation

緒 言

当病院が1994年6月より群馬大学泌尿器科の関連病院となってから今年で6年目を迎えようとしている。開設当初より常勤医は2名であり6年目を迎えた現在でも2名体制は同様である。われわれは、前立腺検診をはじめとする様々な医療活動を行い、千葉県の北西部に位置し、江戸川を挟んで埼玉県に隣接する東葛地区の地域医療に貢献してきた。われわれの病院の存在する流山市は人口約17万人が居住する都市であり、首都圏へは約1時間の距離に位置し、近年人口の増加が見られる地域である。しかし、大きな総合病院といえるのはわれわれの病院を含めて2つしかないのが現状

である。外来患者の増加に伴い、手術件数も徐々に増加している。今回1994年6月から1999年5月までの5年間における東葛病院泌尿器科手術統計を行ったのでその結果を報告する。

対象および方法

1994年から1999年の5年間の手術台帳をもとに統計を行った。すなわち、同一患者で同じ手術を複数回行っている場合も各々1件と数えた。また膀胱全摘術および尿路変更術は各々1件と数えた。1997年10月より導入した extracorporeal shock wave lithotripsy (以下 ESWL) は今回の手術統計の総手術件数からは除外したが、Table 1 に1997年と1998年の ESWL 総

Table 1. Operations for urolithiasis and total operations

	1994	1995	1996	1997	1998	Total
PNL	0	0	1	2	0	3
TUL	0	0	1	6	10	17
Cystolithotomy	5	1	3	7	14	30
Others	155	204	187	221	281	1,048
Total operations	160	205	192	236	305	1,098
ESWL	0	0	0	45	54	99

PNL: percutaneous nephrolithotomy. TUL: transurethral lithotripsy.
 ESWL: extracorporeal shock wave lithotripsy.

* 現: 立川相互病院泌尿器科

** 現: 足利赤十字病院泌尿器科

件数を記した。

結果と考察

入院患者数：男女別入院患者数の合計は、1994年は男性168人、女性29人、計197人、1995年は男性191人、女性26人、計217人、1996年は各々181、28人、計209人で、1997年は225、58人、計283人、1998年は282、81人、計363人であった。

5年間の総数は1,269人であり、男性は1,047人(82.5%)で、女性は222人(17.5%)であった。最初

Table 2. Operations for benign prostatic hypertrophy

	1994	1995	1996	1997	1998	Total
Open prostatectomy	12	8	3	3	2	28
TUR-P	42	15	16	36	38	147
Total	54	23	19	39	40	175

TUR-P: transurethral resection of prostate.

の3年間はほぼ男性 女性・合計数は横ばいであったが、1997年、98年は、男女の患者数および合計患者数も過去3年間に比べて増加している、ESWLが導入されたことも患者数の増加に影響していると思われる。

年度別・性別手術件数：5年間の手術総数は1,098件であった。内訳は男性938件(85%)、女性160件(15%)であった。年度別の手術件数は年々増加傾向であり、1998年度には年間300件を越えた。

尿路結石に対する手術：percutaneous nephrolithotomy (以下 PNL) は開設当時よりほとんど施行されてはならず、1996年に1例と1997年に2例の合計3例を数えるのみでESWLが導入された1997年10月より施行されていないのが現状である。本来PNLの適応であった腎結石がESWLにより破砕が可能となったためと思われる。ESWLが導入されたが、破砕不能例に対しては積極的にtransurethral lithotripsy (以下TUL)を施行した。1998年度には、結石に関連する

Table 3. Operations for malignant tumors

	1994	1995	1996	1997	1998	Total
Radical nephrectomy	3	3	3	2	2	13
Nephroureterectomy	1	4	1	3	3	12
Radical cystectomy	0	2	1	1	1	5
Partial cystectomy	0	1	0	0	0	1
TUR-BT	13	23	28	36	47	147
Radical prostatectomy	1	0	7	3	2	13
High orchiectomy	0	0	0	2	1	3
Total	18	33	40	47	56	194

TUR-BT: transurethral resection of bladder tumor.

Table 4. Miscellaneous

	1994	1995	1996	1997	1998	Total
Pyeloplasty	0	1	0	0	0	1
Renal cyst puncture	0	1	3	1	1	6
Renal biopsy	1	12	23	12	14	62
Ureteroscopy	0	2	1	2	3	8
Prostate biopsy	34	71	64	59	77	305
D-J stent	8	5	0	7	17	37
Nephrostomy	5	5	4	7	1	22
Cystostomy	2	6	5	4	1	18
Carunclectomy	1	0	2	4	4	11
Circumcision or dorsal incision	3	4	8	8	16	39
Endourethrotomy	3	1	2	2	5	13
Valicolectomy	0	2	0	0	1	3
Hydrocelectomy	3	6	4	2	1	16
Orchidopexy	2	2	3	0	3	10
Epididymectomy	1	2	1	0	0	4
Vasectomy	0	0	1	3	1	5
Castration	1	1	1	1	2	6
A-Vshunt	0	0	0	2	7	9
Total	64	121	122	114	154	575

A-Vshunt: arterio-venous shunt. D-J stent: double-J stent insertion.

手術の割合が13.1%を占め, 年々増加の傾向にある。ピンハンマー式尿路結石破碎術(リソクラスト)も導入され, 尿管結石・膀胱結石の治療を積極的に行った結果と思われる(Table 1)。

前立腺肥大症に対する手術: 開設当時は前立腺被膜下摘除術が多かったが, 徐々に減少してきている。1994年度は前立腺肥大症に対しての手術が全体の約1/3を占めていたが, 1998年度には, 約13%占めるにすぎない。レゼクトスコープをはじめビデオモニターを含む周辺機器の発達により, 以前までは被膜下摘除術を施行していた前立腺を内視鏡的に切除可能となったのも, 内視鏡手術が増加し, 被膜下手術が減少した原因の1つと思われる。また $\alpha 1$ -ブロッカーの出現により前立腺肥大症の手術適応が減少してきているのが現状である。このような現象はほかの施設¹⁾でも例外ではないと思われる(Table 2)。

悪性腫瘍に対する手術: 根治的腎摘除術13例(年間2~3例), 尿管全摘除術12例(年間1~4例), 膀胱全摘除術5例(年間1~2例), 前立腺全摘除術13例(年間0~7例), 高位精巣摘除術3例(年間0~2例) また transurethral resection of bladder tumor (以下 TUR-BT) 147例(年間13~47例)で, TUR-BTの増加に伴い悪性腫瘍に対する手術数は徐々に増加傾向であるが, 全体に占める割合はほぼ同様である。しかし, 開腹術はほとんど症例数は横ばいの状態である。根治的腎摘除術と尿管全摘除術の症例数がほぼ同じであることが, 特徴の1つかもしれない。TUR-BTの手術施行例の増加は初発症例の増加もあるが, おもに再発症例に対する再手術の累積によると思われる。1996年に前立腺全摘除術が多いのは前立腺検診を施行し, 手術適応の前立腺癌が多かった結果と思われる。前立腺生検を施行しても実際, 全摘術の適応となる症例が少ないのは, 癌の見つかる年齢が70歳を超えている場合が多いということからもうなづける。PSAが全国的に普及した現在でさえ, 未だにステージD2の末期前立腺癌の初診が見つかる場合があることから, この地域における前立腺癌に対する啓蒙思想の浸透が十分でないことを裏付けていることと思われる(Table 3)。

その他の手術: ESWLの導入に伴い, Double-Jス

Table 5. Anesthesia

	1994	1995	1996	1997	1998	Total
General	19	25	20	16	18	98
Lumber	126	150	132	172	242	822
Epidural	1	11	5	4	2	23
Sacral	0	0	3	2	0	5
Local	15	18	32	42	43	150
Total	161	204	192	236	305	1,098

テントの挿入例が1998年には17例(全体の6%)を占めており, 今後増加する傾向にあると思われる。また前立腺生検も症例数は増加している。5年間の合計は305例で全体の28%を占めている。前立腺生検も今後コンスタントに約3割を占めるとと思われる。過去4年に比べて98年度は外来手術(尖圭コンジローマ カルクルスなど)が多いのも特徴の1つである。また内シャントの症例数も増加してきている。以前は当院の内科医師が施行していたが, 98年度より当科に依頼することとなり増加したものとと思われる。これも今後透析患者の増加に伴い症例数が増加するものと思われる(Table 4)。

麻酔(Table 5): ESWLを除く5年間の手術総数は1,098件である。全身麻酔は98件(8.9%)で, 腰椎麻酔が822件(74.8%)であり, 硬膜外麻酔が23件(2.1%)であり, 仙骨麻酔が5件(0.5%)で, 局所麻酔は150件(13.7%)であった。われわれの病院は, 常勤の麻酔医が2名勤務しているため, 麻酔はほとんどすべて麻酔医による施行となっている。

結 語

1994年6月から1999年5月までの東葛病院泌尿器科の手術統計を行った。

手術件数は年々増加傾向にあり, 今後もさらに増加する傾向にあると思われた。

文 献

- 1) 宮川美栄子, 木原裕次, 岡垣哲弥, ほか: 島田市民病院泌尿器科における手術統計(1992年~1996年). 泌尿紀要 **43**: 759-762, 1997

(Received on February 14, 2000)
(Accepted on July 15, 2000)